コスタリカ定期報告（内政・外交概況　２０１３年１０月～１２月）

【要旨】

内政

●１０月２日、２０１４年大統領・国会議員選挙が公示された。

●１０月、キリスト教社会統一党（PUSC)のエルナンデス大統領候補が突如、党内の裏切り等を理由に候補を辞退し、急遽ロドルフォ・ピサ氏が新候補に選出された。

●１１月の世論調査で、それまで首位を独走してきた与党国民解放党（PLN）アラヤ候補の支持が急落し、ビジャルタ広域戦線（FA)候補及びゲバラ自由運動党（ML)候補と支持が拮抗した。

外交

●１０月、カスティージョ外相が東南アジア諸国を歴訪し、外交関係を強化した。

●１１月、チンチージャ大統領がフランスを訪問し、オランド大統領との首脳会談を実施した他、OECD本部でコスタリカの加盟を訴えた。

●１２月ICJは、ニカラグアとの国境紛争に関し、ニカラグア政府が申請していた、コスタリカによる両国の国境沿い道路建設に対する仮保全命令の発出につき、却下するとの判断を下した。

【本文】

Ⅰ．内政

１．１０月２日、選挙最高裁において、２０１４年大統領・国会議員選挙が公示され、チンチージャ大統領を含む三権の長、国会議員、各党大統領候補が出席した（キリスト教社会統一党（ＰＵＳＣ）のエルナンデス候補のみ、メディア対策の訓練を受けていたとして欠席）。

２．１０月３日、野党キリスト教社会統一党（PUSC)の大統領候補であるロドルフォ・エルナンデス氏が、党内の陰謀や裏切りがあり、「これ以上背中から刺されるのを我慢できない。」と述べ、大統領候補辞退を発表した。その後エルナンデス氏は、支持者の要請を受けて一旦は辞退を撤回したものの、直後に再び辞退した。

これを受けてPUSCは急遽党大会を開催し、エルナンデス氏と予備選を争ったロドルフォ・ピサ氏を無投票で大統領候補に選出した。

３．１０月１８日、各党の大統領・副大統領候補登録が締め切られた。主要政党の大統領候補は以下の通り。

国民解放党（PLN)　ジョニー・アラヤ

市民行動党（PAC）　ルイス・ギジェルモ・ソリス

自由運動党（ML)　オット・ゲバラ

キリスト教社会統一党（PUSC)　ロドルフォ・ピサ

広域戦線（FA)　ホセ・マリア・ビジャルタ

４．それまで泡沫候補と見られていたビジャルタ候補が世論調査で突如２位まで上昇してきたことを受け、ビジャルタ候補自身及びＦＡへのネガティブ・キャンペーンともとれる報道が増えた。ＦＡのアルグエダス国会議員候補が、以前家庭内暴力で訴えられ観察処分を受けたことが報じられ、ビジャルタ候補がアルグエダス氏の国会議員候補取り消しを試みるも、アルグエダス氏自身が反発し、混乱を招いた。また、同党のファシオ副大統領候補が、かつてベネズエラのチェベス前大統領を賞賛する発言をしたことが報じられれ、チャベス・アレルギーの強いコスタリカ国民の間で反響が起きた。

５．与党ＰＬＮのアラヤ候補は、１１月１１日から１５日までメキシコを訪問した。同訪問の目的は、メキシコで与野党協力を可能にしている「メキシコのための協約」について学ぶためであり、与党制度的革命党（ＰＲＩ）、野党国民行動党（ＰＡＮ）、民主的革命党（ＰＲＤ）関係者と会談した。アラヤ候補は「メキシコでは選挙での大きな対立後に、与野党間で教育、エネルギー、財政等につき重要な合意が形成された。コスタリカも状況は似ており、メキシコから学ぶことができる。」と述べた。

６．１２月１日、UNIMER社が１１月に実施した大統領選に関する世論調査結果を発表した。これによると、それまで首位を独走してきたアラヤPLN候補が急落し、代わってビジャルタFA候補が首位に躍り出た。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　７月　　９月　　　　　１１月

ホセ・マリア・ビジャルタ　　　　　　３％　　１１．３％　　２２－１７％

（広域前線：ＦＡ）

ジョニー・アラヤ　　　　　　　　　２６％　　３８．６％　　１９－１４％

（与党国民解放党：ＰＬＮ）

オット・ゲバラ　　　　　　　　　　　２％　　１２．７％　　１９－１４％

（自由運動党：ＭＬ）

ルイス・ギジェルモ・ソリス　　　ランク外　　　４．８％　　　　８－３％

（市民行動党：ＰＡＣ）

ロドルフォ・ピサ　　　　　　　　　１２％　　１６．９％　　　　５－１％

（キリスト教社会統一党：ＰＵＳＣ）※９月までは、辞退したエルナンデス候補の数字

誰でもない　　　　　　　　　　　　１９％　　２０．５％　　１６－１２％

７．１２月１６日、ピサPUSC候補陣営の経済チームが、ゲバラML候補陣営への参入を発表した。

Ⅱ．外交

１．天野IAEA事務局長のコスタリカ訪問

１０月２日、天野IAEA事務局長がコスタリカを訪問し、カスティージョ外相と、核軍縮等につき協議した。

２．カスティージョ外相の東南アジア訪問

１０月２３日～３０日、カスティージョ外相はシンガポール、タイ、ベトナム及びインドネシアを訪問し、各国において以下の会談を実施した。全ての会合においてカスティージョ外相は、対ニカラグア紛争に関するコスタリカの立場を説明した。また同時期、オブレゴン文化青年大臣もシンガポールを訪問してウォン文化大臣と会談した後、日本を訪問して下村文部科学大臣と会談した。

●シンガポール：シャンガム外相と会談。コスタリカ側のアジア太平洋地域への関心を伝えるとともに、航空当局によるオープンスカイ協定締結へ向けた交渉継続を合意し、環境保護及びエコツーリズムに関する協同アクションのために、シンガポールがコスタリカに技術チームを派遣する旨合意。

●タイ：Nonsrichai外務次官と会談。両国が互いの大陸への関心を有することを確認し、それぞれの地域における架け橋となることを歓迎。コスタリカはタイを気候変動脆弱国会合に招待した。

●ベトナム：グエン首相、ファム外相とそれぞれ会談。FEALAC及びCELACを通したアジアと中南米の関係強化、経済関係強化のための投資協定や租税協定締結の重要性等につき協議した。

●インドネシア：マルティ外相と会談。外交官・公務員査免協定、政治対話メカニズム設立協定に署名した他、両国が立候補している人権理事会選挙等につき緊密に協力することを合意した。

３．ヒギンズ・アイルランド大統領のコスタリカ訪問

１０月２６日～３０日、ヒギンズ・アイルランド大統領が当地を来訪し、チンチージャ大統領と、中米EU連携協定、気候変動、軍縮、クリエイティブ産業等につき協議した。またヒギンズ大統領は、米州人権裁判所で「２０世紀の人権」と題する講演を行った。

４．チンチージャ大統領のフランス訪問

１１月２日～６日、チンチージャ大統領はフランスを訪問した。オランド大統領との会談では、CELACとEUとの対話促進につき協議し、またオランド大統領は、仏企業のコスタリカにおける都市交通、製薬、水処理、ゴミ処理分野への参入に関心を示した。また両大統領は、２０１３年のCOP20及び２０１４年のCOP21に向けた協力、中米における海洋安全保障及び組織犯罪対策、学術協力、コーヒーのさび病等熱帯農業に関する協力につき合意した。

またチンチージャ大統領はOECD理事会特別会合に出席し、２０１５年に開始予定のコスタリカの加盟交渉に向けたコミットメントを表明した他、ユネスコ本部も訪問し、コスタリカが世界遺産登録申請をしている石球考古学公園について訴えた。

５．中国借款による道路プロジェクトへの疑惑

サンホセ―リモン間を結ぶ国道３２号線の一部の拡幅・改修工事資金のため、中国輸出入銀行が３９５．７百万ドルを融資（タイド）し、コスタリカ側が８９百万ドルを拠出する予定となっていたプロジェクトは、６月の習近平中国国家主席の当地訪問の際に合意されていた。しかし１１月、野党市民行動党（ＰＡＣ）のオビエド議員が、本件事業に不透明な部分があると告発した。同議員によると、本件はタイドローンであり、中国政府が指定したChina Harbour Engineering Company(CHEC)が請け負うことが最初から決まっているが、CHEC社が提示した予算は、道路事業審議会(CONAVI)が委託したメキシコ企業による見積もりより７０百万ドルも多く見積もられている。また同議員によると、CHEC社は２００５年に複数企業の合併によって設立されたが、その合弁企業の一つであるChina Communications Construction Company(CCCC)は、フィリピンでの事業における不正・汚職疑惑により、世界銀行から事業請け負い不可企業に2009年に指定されていることが判明した。オビエド議員は、政府は一部の利益のために国家主権をも放棄し、不透明な事業を推進していると強烈に批判した。

これを受け公共事業交通省はCHEC社に対して説明を要求し、国会は本件に関する調査を開始した。

６．チンチージャ大統領とエルナンデス次期ホンジュラス大統領との会談

１２月４日、チンチージャ大統領は、コスタリカを訪問したエルナンデス次期ホンジュラス大統領と会談し、二国間関係、中米統合機構（SICA)、ラ米カリブ経済システム（SELA）等につき協議した。また、エルナンデス氏は、コスタリカが同氏の大統領選勝利を祝福した最初の国の一つであることに謝意を表明した。

７．対ニカラグア紛争

１２月１３日、ICJは、ニカラグア政府が申請していた、コスタリカによる両国の国境沿い道路建設に対する仮保全措置命令の発出を不要とする旨の判断を下した。ICJは、ニカラグア政府が提示した情報では、真に切迫した環境破壊の危険性を立証し得ないと判断し、同時に、道路建設による環境インパクトを軽減するコスタリカ側措置を認知した。

コスタリカ政府は本件を外交的勝利と捉えた。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（了）